

音楽の力で人を元気に マエストロ チョン・ミョンフン氏の 人柄に惹かれて

医療法人社団竹口病院 常務理事
森本 雅之



東京フィルゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第28回は、パートナー会員としてご支援くださっている森本雅之様。東京フィルとの出会いをきっかけに始められ、現在もご自身で取り組まれている社会貢献活動について、綴っていただきました。



江戸時代中期の儒学者で米沢藩主・上杉鷹山の師である細井平洲の言葉に「泣き申さず候ては、化し申さず候」があります。人間は真に涙を流して感動したとき素直になり、向上心が芽生え考える力が生まれるというもので、古今東西、人は感動を追い求めています。

私はこの感動を人に届けようと、東京フィルの力を借りて40年近く様々な活動に取り組んできました。

発端は、高校時代の親友・熊野輝光氏(阪神タイガーススカウト)が1984年のロサンゼルスオリンピックで野球日本代表主将として金メダルを獲り、翌年プロ野球パ・リーグで新人王に輝いたことです。その雄姿を見て私は感動し心が動かされ、人が喜んでくれることをしたいとの思いが沸々と湧いてきました。

また、ちょうどそのころ、友人に誘われて初めて経験した生オーケストラによるドヴォルザーク『新世界』、ムソルグスキー『展覧会の絵』に心が震えるほど感動し、私をクラシックの世界へと誘いました。

東京フィルとの活動を
学生教育に活かす



この二つがきっかけで、東京フィルに協力をお願いして私の勤務先の東京医科大学八王子医療センターで患者さんのための病院コンサートを始めるようになりました。

これが縁で、世界的な指揮者のチョン・ミョンフン氏(東京フィル名誉音楽監督)が指揮する東京フィルの演奏に出会い、それまで経験したことのない鳥肌が立つ感動を覚え、チョン氏と東京フィルに惹かれていきました。

チョン氏が放つオーラには、人の心を引き寄せ会場全体を熱気で包み込む大きな力があり、日本はもとより世界中の人々を魅了しています。

チョン氏は、自分の任務は楽譜に生命を吹き込み、生命を宿したまま聴衆に届け、それを聴衆と分かち合うことなので、常に生命に満ちあふれた演奏をしなければならないと語っています。

チョン氏の姿勢に共感した私は、病院コンサートや東京フィルの演奏会における法政大学、早稲田大学、明治大学等の留学生との国際交流、拓殖大学での学生教育などをとおして、東京フィルとの活動を社会に活かしてきました。

私の志は人が喜んでくれて幸せになってもらうことなので、これからも東京フィルの音楽の力を借りながら、人に感動を与え元気づけていきたいと思っています。

森本雅之(もりもと・まさゆき) / 1958年香川県生まれ。1980年専修大学経営学部卒業後、学校法人東京医科大学に入職。八王子医療センターの開設に携わった後、大学本部で会計、総務、経営企画、広報・社会連携を経て企画部統括管理室長、図書館課長を歴任。2022、2024年度拓殖大学客員教授。2023年医療法人社団竹口病院常務理事。